

平成22年度第3回コラボレーションプロジェクト

「地域農業を考えるフォーラム」“地域の課題は住民力で”

日時：平成23年3月27日（日）13時30分～17時

場所：佐用町生きがづくりセンター

内容：◆講演 「TPPと中山間地農業を考える」

神戸大学名誉教授・兵庫県農魚村社会研究所代表 保田 茂氏

◆パネルディスカッション

「獣害を考える」

コーディネーター：但馬まちづくり研究所理事長 梅谷光太郎氏

| | |
|--------------------|-------|
| パネリスト：農事組合江川有機農場 | 山本正志氏 |
| 佐用郡猟友会会長 | 西坂越次氏 |
| 認定農業者 | 谷口茂信氏 |
| 佐用町農林振興課長 | 小林裕和氏 |
| 江川自治会長 | 木村政照氏 |
| NPO 法人ほっとネット373理事長 | 国里吉文氏 |

アドバイザー：神戸大学名誉教授・兵庫県農魚村社会研究所代表 保田 茂氏

共催：兵庫自治学会・農事組合江川有機農場・NPO 法人ほっとネット373

企画代表者：小林 孝郎（農事組合江川有機農場）

年度末も迫った3月27日（日）、地域の課題を考えるフォーラムを開催しました。今回は「TPPと中山間地農業を考える」と、兵庫県でも特に西播磨地域は鹿や猪による獣害に悩まされているため「獣害を考える」、この2点をテーマに佐用町の生きがづくりセンターのホールにおいて開催されました。会場には多くの地域リーダーの参加がありました。

今回のフォーラムは、マスコミでも報道されるTPPについて、中山間地の農業にどのような影響があるのか、どのような行動が必要なのかといった課題について学ぶため、「TPPと中山間地農業」をテーマに神戸大学名誉教授・兵庫県農魚村社会研究所代表の保田茂氏の基調講演を聞き、講演の後で地域からの課題を質問形式で掘り下げました。

基調講演「TPPと中山間地農業」

基調講演の冒頭に保田氏から参加者へのお願いがありました。東北の方で大変な被害が起きて、たくさんの方が避難をされています。今、農業関係の方で特に原発の影響を受けている地域の皆さんはもう避難をされた後は帰れないかもしれない。ということで関西で引き受けてもらえないか、そうした依頼が入っておりますので被災者の方の受け入れが可能かどうか検討し

してもらえないかとの依頼で、放射能に関して、ヨウ素131は半減期が8日間、ゼロになるには10年ぐらいかかるので、元の場所に帰れない可能性があるといった説明がありました。

今、ハウレンソウを鋤きこんでいると言う風景がテレビで出ましたね、あれを見て私の友人がメールを送ってきて、葉っぱについたセシウムを土の中に入れてたらいけないのではないかと連絡してきたので、すぐに農林省の卒業生に鋤き込まない方がよいのではないかと連絡を入れました。農水省はすぐに反応してくれて、ハウレンソウは鋤き込まない、一定程度になって刈り取ってそれを放射性廃棄物として処理する。でないと土が汚れる。土が汚れたらここでは全然作物が作れないわけです。と言う事で原発というのは大変恐ろしい施設です。

こんなに国土の狭い日本で本来作るものではないのです。

今関心を持っていただいておりますTPPなる言葉の意味とこの言葉が何を意味しているか、中身を少し説明させていただいて、これからどう行動したらよいかお話しさせていただきます。

TPPの言葉の意味と中身をそしてそれに対してどう対応したらいいののかの3本柱の説明を

用ではなく就学生という身分でアルバイトとして働いています。正式雇用ならば業者にとってはいいかもしれないが、日本の若者にとっては就職口を奪われる可能性があります。

日本がTPPに加入してアメリカが無関税で物品に関税を付けないとしたら、日本のコメに関する関税率77.8%、それがなくなったらアメリカのコメは10kg 2,000円位で店頭で並ぶでしょう。今コメは店頭で10kgいくらで売られていますか。3,800円位です。20年前はいくらしていましたか。20年前は平均で5,800円位です。20年の間に2000円位下がっています。皆さんは関心ないでしょうから、分らないはずです。お米屋さんはこのような中で原価の高いコメよりも仕入れ値の安いコメを扱うようになります。このような大胆な自由化の協定は今までなかったもので、24分野にわたって9か国が自国に有利になる話し合いを行っているのです。大胆かつ包括的内容を持った協定となるでしょう。

このような協定に対して私たちはどう対応したらよいか、結論から申し上げると理論的には間違いです。言葉も文化も違う国が連携できるはずがない。関税をなくす、あるいは人の出入りもなるべく自由にしてしまおうとすることには慎重であるべきです。しかし実際の世界の動きは理論どおりに動くことはありません。アメリカが自国の経済発展のため、戦略的にアジアを引きずり込んだわけです。アジアに影響力を行使しようとした。そうした話の中で韓国は乗ったんです。韓国の農業は日本より自由化が進んでいない。その国が自由化に踏み込んで猛烈な反対があったけれども、北朝鮮が砲撃したとたんに韓国の世論が変わりました。アメリカが応援したおかげです。韓国の財界は日本はもたもたするに違いないと踏みました。農業団体から票をもらった菅さんが入るはずがないと読んだのです。韓国の自動車と薄型テレビはアメリカでは日本より競争力が強い。その上アメリカと韓国の間で無税で取引を行うと、日本の市場を奪って行く。日本の財界は早く加盟をするよう働きかけているが菅さんははっきりしません。農業団体は圧倒的に反対の声を上げています。ここの皆さんは心根は反対でしょうが、実はアメリカの思う生活をしているはずです。

私は戦略的に日本はTPPに参加すべきと考えています。日本が一番早くTPPに入って困

る国は韓国です。なんで米価が下がっているかわかりますか。アメリカのコメが入ったからですか、違うでしょ、売れないからです。なぜ、高いコメが売れないのか。日本人の賃金が下がっているからです。コメをたくさん食べなければならぬ若者の雇用条件が悪くなっているからです。若者の不正規労働者が増えています。給料が不安定かつ低い。そんな日本で高いコメを食べられるはずありません。皆さんはすでに生活が安定しているけどコメを食べていないでしょう。若いときに比べたら相当減ったでしょう。日本は高齢社会になっているので昔に比べれば半分ぐらいでしょ。若い人が食べない。若者の給料が増えないで米価が上がる、野菜が上がるなどありえません。農業だけ守ったらいいと思って反対して、日本の産業界が衰えて若者の不正規労働がさらに増えて、失業率が上がるでしょう。若者の給料が増えないままで米価が上がるはずはありません。

私は戦略的にTPPに加盟して情報を集めて、まだ9ヶ国で結論が出ていない間に、その段階で日本にも有利になるような協定を作らせていくべきだと思います。出来上がった協定に入れてくれと言っても、無理難題を突き付けられるだけです。

ガットウルグアイラウンドでは77万トンのコメを無理やり買われました。77万トンは日本の消費量の1割です。それだけの物を押し付けられて77%の関税を守れたのです。自由化の担保として77万トンのコメを買われました。アメリカの関心事は牛肉です。牛肉を完全に自由化せよというのが目に見えています。いち早く意思表示をして交渉過程に日本が入ることで有利になるような状況を作り、牛肉にも一定の関税を残す。迫力のある交渉をして日本の農業を全体として、大きな壁はできませんが先ずはある程度の壁を残して、あとは内政、国内でどうするかという対策を講ずるべきと考えます。日本だけが反対できると思われませんか。ガットウルグアイラウンドでも4か国が入って例外を認めるといったけれど、4か国でも負けたんですよ。環太平洋の国で日本以外に入らない国はわかります。中国は当然はいらない。日本一国だけが反対してもどれだけの成果が得られるでしょう。だから理論的には間違い、今回はアメリカの横暴ですよ。アメリカは戦略の中に入りたいわけで日本だけが反対しても勝ち目はあり

ません。ガットウルグアイラウンドでは将来的に自由化しなければあかんわけですよ。それから以降、日本の農業を守るために運動しましたか、何もしていないでしょう。急に思い出たようにまた反対されるのでしょ。ガットウルグアイラウンド反対のビラを配った者が後でモーニングを食べようとしてしましたがモーニングの中身はなんですか。パンの原料は小麦でしょ。小麦の産地はアメリカじゃないですか。外国のものを入れないようにしようとして腹が減ったからモーニングを食べようとする。この程度の反対運動なんです。

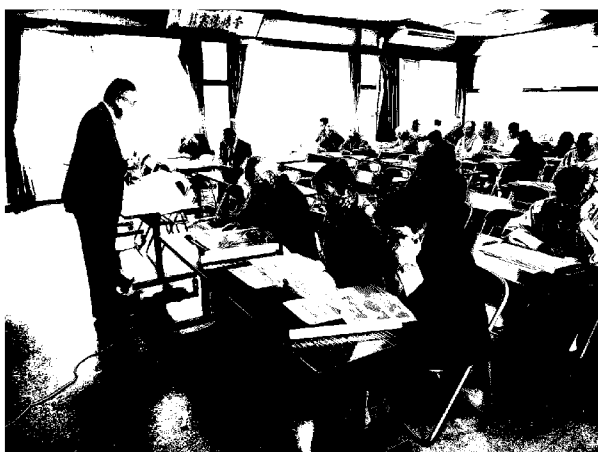
日本の農業団体の反対運動は形式的反対運動です、本当に日本の農業を守る気迫でやっているのですか、今度は私たちがきちんとした意識と暮らしを發揮してゆく必要があります。いくらTPPに反対しても中身から壊れてしまう。TPPの交渉過程に早めに入ったら、そういう条件も付けられます。うまく発言権を持つことが出来たら、最長10年で実現したらいいんです。無関税の条件が付いてもそれを実現するには10年の年次計画で無関税に持って行ったらいいので明日から無関税になるわけではありません。77.8%の関税を毎年10%ずつ落とせば10年でゼロになります。10年間の猶予があります。10年の間に私たちの意識と暮らしを変える努力をしたらいい。意識を変えなければいくら反対しても壊れます。皆さんあと何年農業をやって下さる予定ですか。10年ぐらい、5年ぐらいその次を準備してください。準備ができていないと日本の農業はTPPと無関係に崩壊している。減反率4.7%はアメリカのコメが入ったせいですか、みんなで寄ってたかってコメを食べない暮らしをしているからです。それぐらい迫力のない暮らしをして反対しても仕方ありません。4.7%の減反をしない暮らしをする方が大事。資料に関税比較という表があります。牛肉に38.4%の関税がついて、自動車、携帯電話、カラーテレビ、集積回路の日本の関税率は何パーセントですか、ゼロでしょ。産業界がやれというのは関税がTPPでゼロになっても、すでにゼロになっているからです。日本の産業界はTPPに入っても何の影響もないのです。産業界は韓国より早く入った方が有利になる。韓国は日本が早く入ることに恐怖を感じています。遅れば遅れるほど韓国の思うつぼになります。それはそのまま日本の産業界の不況を作り、若

者の不正規労働を増やし、若者の賃金を低下させ、そして結果として日本の農産物の価格を引き下げ、そして若者の農場就労の機会をさらに奪って行く可能性があるのです。若者の給料が増えないで若者の幸せが来るはずもないし、若者に幸せが無いのにじいさんばあさんに幸せがあるなんてありえません。老後の幸せは若者の幸せの上にあるんです。若者が不幸になりながらじいさんばあさんだけが幸せになるなんてありえない。もっと私たちは若者がどう幸せに暮らせる社会になるか、とりあえず農業で暮らせる社会ではないですけど、働きながらゆっくりゆっくりと農業を転換して農業を活性化してゆく礎を作ってやる姿勢が必要ではないでしょうか。その時にどういう風な対応を取ったらいいか考えているところです。

食糧需給率について、先進国で40年後にゼロになる国はありますか。先進国は工業を大事にしますが、併せて農業も大事にする国なのです。先進国は工業も農業も大事にします。先進国はパンを食べているので需給率が落ちないが、日本人はパンを食べるようになったことで需給率が落ちて減反をしなければならなくなりました。コメを食べ続けていれば需給率は落ちなかったのです。3食のうちの1食は何パーセントですか、33%です。政府にばかり要求しないで我が家から暮らしを変える努力をしていただくことが本当のTPP対応です。そのことを抜いておいて、これまでの農業分野の反対運動は性根が入っていませんでした。意識も暮らしも変えないで、ビラを配った後にモーニングを食べている。そんな反対運動をしてどこに意味があるのでしょうか。

私は基本的にTPPには反対ですけど、ここで日本だけ反対してもあきません。韓国にやられるだけです。それであれば戦略的にいち早く加盟表明し、早く日本の利害を管理できる協定を作るべきです。一方で私たちが意識と暮らしをしっかりと変える仕切り直しをして、今暮らしを変えるのです。今大切なことは環太平洋パートナーじゃありません。佐用町内パートナーシップが必要です。町内のパートナーシップが大事です。生産者と流通業者と消費者の皆さんが佐用町内パートナーシップを作ってゆくこと、こっちの方がよっぽど大事です。後継者がいなかったら何もしないでは、佐用町の農業は衰退します。佐用町の農業を活性化させるには意識

と暮らしを変えることです。そのことをお願いして終わります。



(基調講演の様子)

資料を基にしたわかりやすい講演で、会場からはもう少し聞きたかったとの声もありました。講演の後、参加者との意見交換を行いました。パネルディスカッションにもアドバイザーとして参加していただき、最後にも改めて意見交換の時間を持ちました。

パネルディスカッション「獣害を考える」

基調講演の後、パネルディスカッションに入り、梅谷氏の進行でパネリストの自己紹介を兼ねて順次、獣害の現状や被害の状況の発表をしていただきました。

○NPO 法人ほっとネット373理事長の国里氏 佐用町ではなく岡山県の西粟倉村の状況が報告されました。今年の冬は雪が多く、多くの鹿が出てきたため、600頭の捕獲を行った。1頭捕獲するごとに1万円の補助を行うために補正予算を組んで対応した。今年は大雪のために人里に現れ、庭の木やヒノキの皮まで食べていることが確認できた。また、秋にはクマもよく現れた。家の近くまで現れ、柿などを食べている。岡山県ではクマを捕獲しても再び放すために増えていることを報告されました。

○認定農業者の谷口氏 平成20年に町から補助をいただいて、電気柵を設置しているので今のところ被害はない。21年の災害で被害を受けましたので復旧しましたが草が生えても草を刈らない人があり、全体に影響があるので草を刈ってもらうようお願いしている。施設管理の苦勞が報告されました。個人でも狩猟の資格を取って箱罠を設置して、少しでも駆除出来た

らと取り組んでいる。イノシシやシカを捕獲している。イノシシは食べたり、近所に配っているが鹿の処分には困っている。

○山本氏 稲、麦などを栽培しているが毎年、2割ほどは被害を受けている。被害は農業共済の分しか報告されていないので実際には家庭菜園などを含むもっと大きな被害となっている。私も狩猟免許をもって猟を行っています。メンバーの平均年齢が70歳と高齢化しているので猟友会には協力をしてもらっているがこれ以上のことはお願いできないと思っている。檻や罠も行っているが田や畑の近くに設置するとシカやイノシシを呼んでいるようなもので山の中に設置する必要がある。動物は学習能力があるので防護柵や電気柵をしても2年から3年で効果がなくなる。今後は皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

○行政の立場から小林氏 平成15年頃から急激に増えてきた。西播磨では農業において1億円程度の被害、林業では5500万円の被害があると報告があるが、家庭菜園は含まれていない。ヌートリア、イノシシ、シカなどの被害を受けているが、近年はシカの被害が急増している。被害防止のために金網、電気柵、トタン、のり網、ワイヤーメッシュなど約400kmを行っている。個人の分を加えると500km近くあるのではないかと推測している。今日は皆さんのお話を聞いて勉強させてもらいたいと思っている。

○木村氏 獣害被害の現状は深刻な状況になっている。人間が動物たちに檻の中へ閉じ込められている。今まで食べていなかったようなものまで食べる状況になっている。動物が食べていた山の中が一昨年の大水害で荒れているために食べ物を求めて出てくるのではないかと。今日は皆さんと勉強して集落として取り組めるものは取り組みたい。

○西坂氏 今日個人的に参加させてもらっているので猟友会の意見を集約したものではないと理解していただきたい。昭和47年に狩猟免許取りました。その頃には佐用校区で鉄砲をもっている人が40名ほどいましたが現在では2名になっている。昭和50年代ではスポーツとして行い、シカの姿を見ることは少なかった。当時はメスを捕ってはいけぬオスだけですということ年数回しか見ることはなかったが現在では毎日見られる状況になっている。

この様な状況にあります。猟友会の会員の減少、高齢化と若者が許可をもらうことも少ない。猟友会への期待感はある、それなりに活動していますが効果は上がっているような、いないような状況にあります。

○梅谷氏 但馬も一緒にイノシシもシカも増えて大変なことになっている。農業をするというのではなく老後の楽しみにいろんな作物を作っておられる高齢の方はそれなりに農地を守り、農業を守っていらっしゃるのですが、明日、明後日に収穫をしようとするときに獣にやられて、生きる希望までなくしてしまうこともある。猟友会の会長の話では40名いた会員が2名になっていることはそれだけが原因ではないですが、イノシシやシカがのさばって皆さんの丹精込めた作物を荒らしている。頭数を減らすという考え方、垣などで入らせないようにする方、地区でされている方、行政に頼って助成を受けながらされている方、獣の頭数を減らすということについて分けて考えます。獣の頭数を減らすということについてパネラーの意見を聞きたい。

○国里氏 個人では捕獲できないものですから猟師に頼むしか方法がないので一頭当たりの手当を上げてでもお願いするより仕方ない。

小林氏は猟期については決まっているが有害捕獲として通年行われていると話しました。

○谷口氏 囲い罠の設置は18m角の用地が必要で操作のための電気も200m以上になると電圧が落ちて使えない。適当な場所がないので申し込みは見送った。狩猟免許を取ったので囲い罠ではなく、箱罠を無償で貸していただければできる。去年は1人1個しかできなかったが獲るのであれば5個ぐらいは置きたい。

○山本氏 3ヶ月半に86日間山へ行きました。イノシシを80頭、シカを120頭獲りましたが一向に減った感じはしない。シカの中には2頭を生むシカもいるし、イノシシも年に2回生むのもいる。獲るには限界があり、シカにおいてはDNAが3種類あり、絶えることはないといわれている。

○梅谷氏 佐用町でシカの数はどのくらいで、適正な数はどのくらいでしょうか。

○小林氏 推計ですが人によっては5万頭、または10万頭という人もいます。適正な数については審議会が作られているのでその中で決められると思います。去年、3万頭の捕獲計画を出していますので平成28年まで続ければ効

果が期待できます。一昨年は500頭を捕獲しました。被害が大きいということで昨年の8月から銃器だけでなく罠を使って11月14日までに1114頭の捕獲実績があります。

○木村氏 地域で竹や木が民家の近くまで覆い茂っているので地域で管理整備をしようということで行っています。そうして見晴らしをよくすることで出なくなりましたが、動物も学習能力がありますので最近では出るようになりました。また、ごみを捨てることでそれを食べに出てくる場合もある。餌を与えないということにも取り組む必要がある。自分たちは防ぐことに目覚めなければならない。

○西坂氏 山本さんが言われたように減らすのは難しい。山が荒れているので昔は割木にするために20年から30年ごとに木を切って、新しい草や木があったので村に出てこなかったのかと思う。最近では谷々で休耕田があり、荒れ放題になっているのでその草がなくなると出てくる。爆竹等を使っても2、3日は出てこなくても学習能力があるのでまた出てくる。昼間に1頭でもたくさん取るより仕方ないのかと思っている。動物に作物を食べられない工夫を個人的でも集落でもしている方がおられれば紹介いただきたい。

○国里氏 去年の4月から、獣害防止柵を作る補助金を1m250円から材料費の半額まで補助することにしたので、長持ちするものを作れるようになった。集落単位で中山間地の費用で作れるので個人の負担はありません。ショックを受けるのは家の近くで高齢者が生きがいで作っているものを取られてしまう。金額は知れているが取られたショックは大きい。

○谷口氏 平成20年に電気柵をしたが平成21年の災害で被害を受け、復旧した。今のところ電気柵は有効に効いている。

○山本氏 自分で守るより仕方ないと考えている。集落では高齢者だけで取り組めない。個人で電気柵を12基設置しているが2、3年しか効果がない。個人で白菜などを捨てる人があがるが夜にシカが食べている。個人が気を付けないと被害を少なくすることはできない。

○小林氏 森林動物研究センターの話では薪を作らなくなると、山を捨ててしまったことや山の近くの農地を管理しなくなったことで動物が安心して住める場所が多くなった。動物の習性を考えなければならない。動物はもともと臆

病なもので習性を踏まえて考える必要がある。最近では早く稲の収穫を行うのでひばえが食べられている。生育の悪い作物を放置することで不要なものが餌場になっている。農家一人一人が餌場にしないという意識を持つことが大事なことです。

○木村氏 個人でできることは取り組みたい。竹藪が水に弱いことが今回わかりました。タケノコをイノシシが掘って穴の開いたところに水がたまって、山が崩れる。山は動物が住み着かないように環境が破壊されてしまっている。シカは年に1回しか子供を産まないと子供のころから聞いていましたが2頭も生むとか年に1回生むのではないことなどから動物の頭数を減らすことより、研究をすることが大事で1頭と2頭では大きく違う。

○西坂氏 犬を繋いでおれば何日かは効果があるが慣れれば鼻先までくるので場所を変えるなどしないと違う場所から入る。佐用町の猟友会では県内外から応援をしてもらっている。6人が他支部から応援に来ている。佐用の会員と一緒に捕獲活動をしている。

○梅谷氏 神戸新聞にシカ肉の燻製をしている記事が出ていた。シカ肉の有効利用について、但馬では村内の燻製屋でスモークして、高く売っているが悩みの種は安定的に肉が入らない。ヨーロッパや北海道では高級料理として使われているが佐用町で肉を利用して、有効に活用している動きがあれば教えてください。

○小林氏 佐用町商工会でシカコロケを作って、年間40頭ぐらい使用している。そのほかにはシカカレーやシカバーガーなどがある。宍粟市では波賀、山崎、千種で使われている。年間3万頭に追いつくのは難しい。平成22年度にガイドラインを作り、今年から行うがもともとシカ肉を食べる習慣がないので広報を行う必要がある。

会場にも意見を求めたところ、矢代氏から、法改正してみんなが獲れるようにすること、農業普及員が広く指導するようにしなければならないとの意見が出た。

梅谷氏から最後にメの言葉を提言風にまとめてもらいたいとの提案があった。

○国里氏 鹿肉の活用について、美作市は肉の処理施設建設を前提に研究することになっている。B型肝炎やBSE等の対策が必要。食べよ



(パネルディスカッションの様子)

うとすればそこまでしないと使えない。自分でできることは耕作放棄地を作らないこと、見晴らしの悪いところを作らない、残飯を捨てない等、一人一人が他人ごとではなく今から実践していけないといけないと思う。

○谷口氏 個人でできることは農地を荒らさない。腕を磨いて籠篋で一生懸命、捕獲すること。

○山本氏 矢代氏が言われたように法を変えてでも取って行かないと進まない。一人一人が考えて、集落単位で取り組んでいきたい。

○小林氏 被害をなくすことは動物がたくさんいる限りは続く問題で、被害の状況、食性、習性、時期を研究し、集落を餌場にしないことが必要。防護柵を管理していることを集落が認識する必要がある。個人でできることや集落全体でやらなければならないことを全体で話し合っていくことが重要ではないか。被害が発生する地域であることを認識して、農業生産システムを作っていくことが必要。保田先生からこのような状況にしたのは誰ですかという質問がありました自分たちがしたことを認識すべきと感じました。

○木村氏 先生の講演でドキッとさせられました。獣害問題は意識と暮らしを変える。昔の良さを見直すことに取り組んでいるが、本日のテーマも去年6月に佐用町獣害防止対策協議会を設立した矢先に災害になってしまった。自治会の代表等それぞれの立場で取り組んでいくことが大事で自治会でできることに取り組んで細かいことでも積み重ねれば大きな力になる。

○西坂氏 猟友会は集落に入って活動できるようにしたいので山に入りますがよろしくお願ひします。

ここでアドバイザーの保田先生からのお話を伺います。

○保田先生 豊岡の実家で400㎡ほどの畑に野菜を作っていますがご多分に漏れずシカやイノシシの餌になっています。電柵を張っていますが、今年は大雪でみんな柱が折れてしまっていて、直さなければならぬ。今のお話の内容を整理したうえでいい方策を考えていただきたい。シカ、イノシシが生活空間に入り悪いことをしていますのでこれに対して、対応をどうするかという事で5つの柱付けをしてみました。先ず一つは頭数管理をどうしてゆくか。二つ目は行動エリアの制約をどうやっていけるか。三つ目は防衛策、防護柵で自分を守る。自分たちで守る。四番目は研究しなければならない。どこで何を食べているのか。何頭生まれているのか。いつ生まれているのか。子供は何を食べているのか。研究抜きではいい方策が見つからない。佐用は佐用で研究する必要がある。最後、五番目は法整備をきちっとしなければならない。五つの方策をみんなで考えていただきたい。

最初の頭数管理ですけれども皆さんが行っている頭数管理は捕獲という事になりますが、自然界の頭数管理は自然のうちに頭数管理が出来ているんです。それは天敵という頭数管理者がいるから子供が生まれても数が増えない。自然のなかで頭数管理が行われています。決して増えない仕組みが出来ているわけです。それは子供が増えない。子供が自然界の餌になっているわけです。今は人間が罾や鉄砲で撃って頭数管理をしているわけですがけれども本当は自然の仕組みをどう活用するかと、子供をあまり増やさないとというのが一番の自然の頭数管理となるわけです。ここで研究につながってくるわけですが、一番子供の頭数管理をしやすいのは授乳期で、子供が一番弱いわけです。一番弱いときに親がどんな格好で乳を与えているかその時に追い払い、親と子を切り離してしまおう。授乳期に親と子を切り離せば子供は育たないわけです。自然界では結構そのような形で自然の天敵が子供を捕まえるために親と切り離して食べてしまおう。数が増えるというのは餌があるからで皮肉な見方ですけどそれだけシカがよく育っているということは佐用の自然が豊かだからということで自慢もできる訳です。それだけ餌があるわけですから餌をみんなして減らせば頭数が増えないわけです。餌の管理とみんなで食べるとい

う頭数管理もある。

行動エリアの規制、できるだけ人里に降りてこないようにする。このやり方は自然界のテリトリーという、本能的な自分たちの生活空間をお互いに守りあっているわけです。今は人間様が動物のテリトリーを増やしっぱなしにしているから降りてくるんです。なぜ昔は降りてこなかったかということ人間様がテリトリーを山の中まで広げていた。山の中に人間の痕跡を残したわけです。ですから遠慮して、来なかった。今は人間のにおいも痕跡もないから、遠慮なく降りてくるわけです。動物と人間との領域、テリトリーを動物に遠慮させるように人間が山の中へ入ってゆく必要がある。痕跡を残す必要があり、クマは匂い付けをしますよね。犬は小便をします。自分の領域を誇示するわけです。人間も山の中へ入って、人間のにおい付けをすることはできる。行動エリアを抑制する。他の動物がいたら遠慮するわけで、あちこちで紹介しているわけですが里に犬を放すのは怖いけど、里の山側に犬を放す。1頭ではなく3頭ぐらいを群れにして放す。綱をつけないで柵の山側に犬を放せば、犬が遊べば降りてこないのではないか。夜だけ柵の外へ放して朝に帰ってくる訓練をしておけば問題ないのではないか。猟友会に柵の外に放すことを研究いただいたらどうかと思います。次に研究、大学の学生に金を出して、やはり投資しないとイケません。助成、助成ではなく自分でしなければイケません。研究することも大事なことでないでしょうか。

最後の法整備も非常に大事なことで誰でも捕まえられる時限立法を作ればいい。5年間、誰でも捕まえられる。5年たったから見直す。法整備の中に犬も放し飼いでできる法律を作ったらい。今、矢代氏の話聞いてそう思いました。

続いて会場からの質問を受けました。

会場からの質問では括り罾の猟期中の許可について質問があり、猟期中は県のほうで許可しないことになっている。河川の土砂が堆積し、シカが入りやすくなっているとの質問ではシカは河川からでもブロックに足をかけて、簡単に飛び越える。土砂の撤去は河川管理上で要望する必要がある。犬については犬を散歩に連れていくところではイノシシも出ない。におい付けをするので出ないという参考になる意見も出ました。

次に米粉を使ったお好み焼きと米粉パンについて提案があり、お好み焼きに猪肉やシカ肉を使うとおいしいとの紹介がありました。アドバイザーの保田氏は米粉は単独でパンにできないので必ず小麦粉を使うので減反を少なくすることはできない。日本人は食生活から腸の長い人種のため、粉でなく粒で食べることが健康に良いこととお話いただきました。

次にシカ肉の有効利用について、質問があり、シカ肉の食べられるところは人間が食べて、残りは動物のエサとして有効利用してはどうか、また、広域的に処理施設を作るのは問題があるかとの質問がありました。頭数管理の一環としてシカ肉の安定供給が可能であればそれも一つの方法ではある。安定供給がシステム化されていることが必要。

最後に梅谷氏から明日からでも獣害について話し合っていて、獣害から生活を守り、命を守るようにもっていただければフォーラムの成果であるとの締めくくりがありました。

まとめ

今回のフォーラムは佐用町が直面する課題をテーマに「TPP と中山間地農業について」及び最近非常に多くの被害が発生している獣害について開催しました。

小規模な農家の多い佐用町では関心の低いTPPについて日常の生活の中から対応できることがあることを基調講演で確認することができました。

パネルディスカッションではそれぞれの立場で現状、課題、今後の取り組みや方向を確認することができました。獣害については決定的な対策はなく、個人、地域、猟友会、行政がそれぞれにできることについて連携を持ちながら、頭数管理を実現させる取り組みが必要だということを共有して閉会をしました。

フォーラムのアンケートを実施しましたのでそのまとめを行うこと、今後も継続的に課題に取り組むことで効果を検証し、より望ましい方向をめざした活動を展開するため、兵庫自治学会の支援も得ながらプロジェクトを継続したいと考えています。

最後に保田茂氏、梅谷光太郎氏を始め、パネラーとしてご協力いただきました各位に感謝申し上げます。